

日本植生史学会ニュースレター

No.63 Aug 8, 2025

第40回日本植生史学会大会のご案内（第2報）・学会ニュース

第40回日本植生史学会大会のご案内（第2報）

第40回日本植生史学会大会・総会を、岡山理科大学と岡山国際交流センターにて開催します。

◆ 大会ホームページ

大会専用のホームページを開設しました。最新情報はこちらに順次掲載します。

<https://hisbot2025.main.jp/>

◆ 開催日程

2025年11月28日（金）～12月1日（月）

11月28日（金） 幹事会

11月29日（土） 評議員会・公開シンポジウム・論文賞受賞記念講演・懇親会

11月30日（日） 一般研究発表（口頭・ポスター）・総会

12月1日（月） 巡検

◆ 開催方法

対面で開催します。公開シンポジウムと論文賞受賞記念講演のみオンライン（Zoom使用）でも配信します。
オンラインでの視聴方法は次報以降でお知らせします。

◆ 会場

11月28日（金）岡山理科大学岡山キャンパス 50周年記念館 3階会議室：幹事会

11月29日（土）岡山国際交流センター（岡山駅西口から徒歩3分）

研修室：評議員会

国際会議場：公開シンポジウム・論文賞受賞記念講演

レセプションホール：懇親会

11月30日（日）岡山理科大学岡山キャンパス 50周年記念館

4階多目的ホール：一般研究発表（口頭発表）・総会，3階会議室：一般研究発表（ポスター発表）

※ 岡山理科大学 岡山キャンパス（岡山県岡山市北区理大町1-1）

会場へのアクセスは下記ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.ous.ac.jp/access/>

※ 岡山国際交流センター（岡山市北区奉還町2-2-1）

会場へのアクセスは下記ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.opief.or.jp/oicenter/access.html>

◆ 宿泊

岡山駅周辺に多数ホテルがございます。各自でお早めにご予約ください。

◆ 参加費・参加資格

一般会員：2,000 円，学生会員：1,000 円，非会員：4,000 円（講演要旨集代を含む）

公開シンポジウムと論文賞受賞講演のみ，現地・オンラインともに会員・非会員を問わず無料で参加できますが，一般研究発表の講演要旨集の配布と参加者名簿への登録は行いません。

学部生で聴講のみの方は，会員・非会員を問わず無料で一般研究発表（口頭・ポスター）の聴講が可能です。参加者名簿に登録いたしますので，参加の申し込みを行ってください。ただし，講演要旨集（冊子体）は配布しませんので，必要な場合は別途ご購入ください（販売価格 1,000 円）。

研究発表をおこなう者（第一著者）は日本植生史学会の会員であることを条件とします。発表をご希望の方は以下から，発表の登録までに入会手続きをおこなってください。

日本植生史学会 HP <http://hisbot.jp/>

◆ 懇親会

11 月 29 日（土）に，岡山国際交流センターレセプションホールにて開催します。

懇親会費 一般会員：6,000 円，学生会員：3,000 円

◆ 公開シンポジウム「最新 DNA 研究から探る日本列島における栽培植物の起源と来歴」

11 月 29 日（土）13：00～17：00 岡山国際交流センター

本公開シンポジウムでは，日本列島で重要な栽培植物の起源と来歴についての最新 DNA 研究を紹介します。日本植生史学会では，これまで考古植物学の視点から，日本列島における栽培植物の起源と来歴を検討してきました。一方，遺伝学や育種学による DNA を用いた研究からも最近続々と新しい研究成果が出てきています。本シンポジウムでは，ウルシ，アズキ，クリ，ナシ，イネについての最新の DNA 研究を紹介いただき，これまでの考古植物学の知見と統合することで，日本列島における栽培植物の起源と来歴についての理解を深めます。また，最新の次世代シーケンサーを利用した弥生時代のイネの古代ゲノム解析についての研究もご紹介します。

本公開シンポジウムは，科学研究費補助金 学術変革領域研究（A）「統合生物考古学」計画研究 C03「先史人類による人為的環境形成（植物相）に関する研究」との共催で実施します。

登壇予定者：

那須浩郎（岡山理科大学）：趣旨説明

菅裕（県立広島大学）：ウルシについての DNA 研究（仮題）

内藤健（農研機構）：アズキについての DNA 研究（仮題）

西尾聡悟（農研機構）：クリとナシについての DNA 研究（仮題）

石川亮（神戸大学）：イネについての DNA 研究（仮題）

大田竜也（総合研究大学院大学）：イネの古代ゲノム研究（仮題）

公開シンポジウムはオンライン（Zoom）での配信も予定しています。申し込みの詳細は次報以降でお知らせし

ます。現地で参加する場合は申し込み不要です。直接会場にお越しください。

◆ 巡検

12月1日（月）に岡山県内において日帰りを実施する予定です。詳細は第3報以降でお知らせ致します。

◆ 参加・一般研究発表の申込締切

10月27日（月）：大会参加登録・一般研究発表申し込み・講演要旨提出

11月17日（月）：公開シンポジウム・論文賞受賞講演のオンライン視聴申し込み

申込フォームは次報以降でお知らせいたします。一般研究発表を行うためには会員登録が必要です。

◆ 一般研究発表

発表と質疑応答の要領の詳細については、大会1か月前を目途に大会ホームページに掲載予定です。申込み多数の場合、口頭発表／ポスター発表の変更をお願いすることもあります。

<口頭発表>

現地会場のみで開催いたします。口頭発表のオンライン配信はありません。持ち時間は、質疑応答を含め15分程度を予定しています（申込件数によって調整）。

<ポスター発表>

現地会場での開催です。オンラインでのポスター掲示はできません。なお、コアタイム前に、1件1～2分程度のフラッシュトークを行っていただく予定です。

◆ 発表要旨の執筆要綱

発表要旨は下記の書式にしたがって作成し、10月27日（月）締切（必着）までに、大会実行委員会まで電子メール [taikai40\(at\)hisbot.jp](mailto:taikai40(at)hisbot.jp)（(at)を@にしてください）にてお送りください。

<書式>

- ・ A4用紙、縦レイアウトに横書きで、図表も含めて2ページ以内に収める。
- ・ 原稿は左右に2cm、上下に3cmの余白を設ける。
- ・ 講演タイトルの下に1行あけて氏名と（ ）内に所属を記入する。
- ・ 連名の場合は発表者の左側に○印を付ける。
- ・ 講演タイトルと氏名はセンタリングする。
- ・ 本文書き出しの前も1行あける。
- ・ 原稿はできる限りPDFファイル、もしくはMicrosoft Wordファイルで提出する。
- ・ 図表を挿入する場合はpdfファイルも併せて提出する。
- ・ 文字化けを防ぐため、特殊なフォントの使用を避ける。

◆ 優秀発表賞について

(1) 優秀発表賞の趣旨

日本植生史学会大会での若手研究者の積極的な研究発表と、植生史研究への投稿を促進することを目的として、大会での口頭発表、ポスター発表に対して賞を授与します。

(2) 賞の内容と副賞

優秀発表賞の受賞者は大会終了後に通知し、表彰状を授与します。また、大会終了後1年以内に当該発表を植生史研究に投稿した場合、副賞として研究奨励費5万円を授与します。

(3) 審査対象

発表者（筆頭者）が学生・大学院生もしくは学位取得後5年未満の会員に限ります。上記の基準にしたがって、審査委員長が発表者一覧から審査対象者を選定します。審査対象者は参加申し込み時に対象者であることを明記してください。

◆ 展示物

会場にて展示を行いたい方は大会実行委員会までご相談ください。内容によってはご希望に添えない場合があります。

◆ 企業広告の募集

講演要旨集と大会HPに企業広告を掲載致します。ご希望の方は大会実行委員会までご連絡ください。

◆ 主催 日本植生史学会

◆ 実行委員

那須浩郎（委員長）、藤木利之、實吉玄貴、黒木出、上田圭一、森将志、前田仁暉、浦蓉子、柳原麻子

◆ 本件に関するお問い合わせ先

taikai40@hisbot.jp

学会ニュース

● 学会誌『植生史研究』のオープンアクセス化に関するご意見募集

現在、学会誌『植生史研究』は、発行から2年間は会員限定の公開としております。しかし、学術界におけるオープンアクセスの世界的な潮流や、2025年度からの科研費による研究成果のオープンアクセス化義務化を踏まえ、この度、出版後すぐに誰もが無料で閲覧できるフルオープンアクセス化を検討することになりました。オープンアクセス化により、本誌に掲載された論文の情報発信力の強化や被引用数の増加といったメリットが期待されます。つきましては、オープンアクセス化の是非について、会員の皆様のご意見を幅広く募集いたします。

オープンアクセス化についてのより詳細情報やご意見募集は、Google フォーム (<https://forms.gle/mGV39XtQrs75dfu37>) に掲載されております。

お忙しいところ恐縮ですが、学会運営の参考にさせていただきたく、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、紙媒体での回答をご希望の場合は、本ニュースレターの最終ページに、別紙としてフォームの内容を載せました。適宜ご利用ください。紙媒体のご回答を送付される場合は、庶務幹事宛（住所等は次ページをご参照）へお願いいたします。ご意見募集の締切は2025年10月31日です。



詳細情報やご意見募集はこちら

● シニア会員制度のご案内

日本植生史学会では、植生史学分野に長年携わり活躍されてきた会員に、定年退職後も学会活動への継続的な参画を期するため、「シニア会員」の制度を設けています。

すでに 60 歳となり定年を迎えた方や、今年 3 月に定年を迎えた方など、常勤の職を持たない 60 歳以上の正会員の方で、シニア会員への会員種別の変更を希望される方は 2025 年 8 月末日までに申請書（学会 HP よりダウンロードできます）に必要事項を記入の上、庶務幹事宛にお送り下さい。申請書のダウンロードができない方は庶務幹事にお問い合わせ下さい。幹事会での承認を経て、次年度（2026 年度：2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）よりシニア会員として登録されます。登録の流れについては下図をご覧ください。シニア会員は日本植生史学会において正会員と同じ権利を持つものとし、会費は 3,000 円とします。

	2025 年										2026 年			
	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
年度	2024	2025												2026
学会年度	2025							2026						
		← 申請 →					承認	シニア会員として登録, 以降の会費は 3,000 円						

● 会費納入のお願い

2025 年度の会費納入にご協力ください。

日本植生史学会会費（2010 年度より）一般会員：6,000 円・学生会員：3,000 円・シニア会員：3,000 円・団体会員：8,000 円・賛助会員：一口 20,000 円とし一口以上とする。

会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等がある方は、以下の日本植生史学会事務局にご連絡ください。

● 学会メーリングリストへの情報提供のお願い

日本植生史学会では、会員相互の情報交換を目的としたメーリングリスト（ML）を運営しています。会員の皆様に関わるシンポジウム・講演会などのイベント、プレスリリースなどの情報、人事や研究予算公募などの情報、関連分野の動向など、本会に関連する内容であれば投稿内容は基本的に自由です。

メールの件名を「メーリングリスト配信希望」とし、ご希望の内容を広報・渉外幹事（hbnews@hisbot.jp）までお知らせください。毎月 25 日までにお寄せいただいた情報は、翌月のメーリングリストで配信します。

事務局：

●連絡・問合せ 庶務幹事 上條信彦 〒036-8561 弘前市文京町1番地 弘前大学人文社会科学部

TEL：0172-39-3273 庶務：hbmain@hisbot.jp 会誌投稿：journal@hisbot.jp

●NL編集 ホームページ・企業広告問い合わせ 広報・渉外幹事 渋谷綾子 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp

●入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル (株) 春恒社 学会事業部内

日本植生史学会事務局

Tel：03-5291-6231 Fax：03-5291-2176 Mail：hisbot-office01@shunkosha.com

●学会ホームページ <http://hisbot.jp/>

<別紙>

令和 7 年 8 月 8 日

会 員 各 位

日本植生史学会会長

百原 新

「植生史研究」のオープンアクセス化に関するご意見募集

平素より、植生史学会の活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。下記のような背景と目的から、「植生史研究」を出版後直ちにオープンアクセス可能（フルオープンアクセス化）とすることについて、会員の皆様からのご意見を広く募りたく存じます。アンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。皆様からの貴重なご意見は、今後の学会運営の参考にさせていただきます。以下、オープンアクセス化の動向と「植生史研究」の現状の説明になります。

1. オープンアクセス化の背景と意義

オープンアクセス（Open Access: OA）化とは、査読付きの学術論文をインターネットを通じて時間や場所の制約なく、誰もが無料でアクセス・入手できるようにする取り組みです。これにより、学術情報の流通が促進され、学術研究全体の発展に大きく寄与すると考えられています。近年、世界的にオープンアクセス化の動きが加速しており、日本においても、令和 7 年度からは、科研費の助成を受けて執筆された査読付き学術論文およびその根拠データについて、学術雑誌掲載後、速やかに「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載が義務付けられます（https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html）。研究者にとっても、オープンアクセス化は自身の研究成果の情報発信力を強化し、論文の被引用数の増加など、様々な利点が期待されています。

2. 「植生史研究」のオープンアクセス化について

植生史学会ではこれまで、会員の皆様へのメリットとして、出版後 2 年間の論文 PDF を会員限定で閲覧可能として、2 年経過後にオープンアクセス可能としておりました（制限付きオープンアクセス）。しかしながら、上記の状況変化を鑑み、「植生史研究」のオープンアクセス化をより推進すべきではないかと考えております。具体的には、論文掲載後ただちに PDF をオープンアクセス可とする（フルオープンアクセス化）ことにより、会員の皆様の論文投稿を促進し、ひいては情報発信力の強化につながるものと期待しております。

3. 会員の皆様へのご意見募集

下記の質問へのご回答およびご意見をお寄せください。お名前およびメールアドレスの記載は任意です。ご協力よろしくお願い申し上げます。

Q.1 植生史研究のフルオープンアクセス化に賛成ですか？○で囲んでください。

賛成 / 反対

Q.2 植生史研究のフルオープンアクセス化に関し、ご意見をお寄せください（自由記述）。

お名前（任意）

メールアドレス（任意）